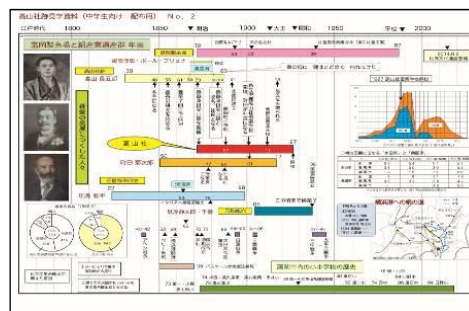
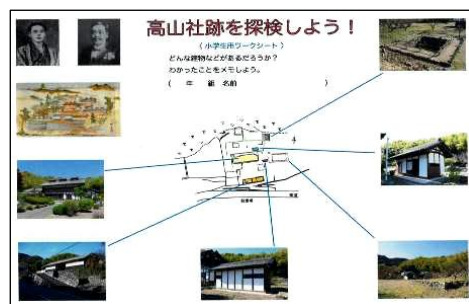


る。現在高山社跡は母屋兼蚕室の修復・耐震補強の工事が続いており、通常では見られない建物の構造部分や使用されている木材等の様子の見学ができています。さらに、世界遺産である富岡製紙場の見学をするなど、様々な体験を行った。

(2) 「高山社学」を柱とした実践例

高山社跡が校区にある美九里西小学校では、「高山社学」を柱として、3～6年生の総合的な学習の時間をE S Dの活動に位置付けている。具体的には3年生では、身近な地域に関する学習「美九里地区について調べよう」、4年生では「郷土の誇り高山社」、5年生では、福祉に関する学習「地域の人々つながり支え合う社会」、6年生では「地域の歴史や文化を知ろう」をテーマに各学年で探究的な学習を行っている。

特に4年生は、高山社跡見学（図3）や富岡製糸場見学、理科の授業を通して養蚕体験（図4）や座繰り体験（図5）などに取り組んでいる。これらの体験学習や調査活動を踏まえて、児童一人一人が主体的に課題を追究し、3年生に発表している。



高山社跡見学資料（図2）
（上 小学生資料 下 中学生資料）



高山社跡見学（図3）



養蚕体験（図4）



座繰り体験（図5）

また、4年生が育てた繭の6年生への引き継ぎ式を行い、卒業式のコサージュ作り（図6）を行うなど、学年をまたいだ、縦のつながりも重視している。美九里西小では、これら一連の活動を通して、養蚕を支えてきた人々の工夫や努力に対する敬意や蚕を大事に育てる気持ちを育てている。また、高山社跡を地域教材として生かすことが、学習意欲の向上につながり、地域の一員としての自覚を促すことにも大きく寄与している。



卒業式のコサージュ作り（図6）

4. おわりに

子どもたちには、『E S Dで未来を創る高山社学』を通して、郷土の宝である高山社について学ぶことで、地域のよさや、地域との「関わり」、「つながり」を実感的に捉え、地域の一員として地域を担い支えていく気持ちを育てていってもらいたい。そして、地域の一員として地域に根ざした文化や伝統を次の世代につないでいく意欲を高め、実社会の中で持続可能な地域づくりに主体的に関わることができる郷土を愛する児童生徒に育ててほしいと願っている。